

4月地震火山グループ研究会「東日本大震災の調査研究」

日時：4月22日（金）14:00 - 16:20

会場：京大宇治キャンパス 黄檗プラザセミナー室4, 5

14:00 - 14:20

発表者名：深畑幸俊

タイトル：「東北地方太平洋沖地震による絶対歪みの解放」

要旨：地震は歪みの解放過程であるが、通常は蓄積されたひずみの一部を解放するに過ぎない。しかし、2011年東北地方太平洋沖地震は、断層上にこれまでに蓄積された歪みをおよそ全て解放する極めて例外的な地震であったと考えられる。なぜそのように考えられるのか本震の破壊過程や余震のメカニズム解から説明すると共に、その物理的意義について述べる。

14:20 - 14:40

発表者名：高田陽一郎（高田、福島、橋本）

タイトル：InSAR解析による誘発された内陸地殻変動の検出

要旨：ALOS(だいち)搭載の合成開口レーダー(PALSAR)が東日本を広域かつ面的に撮像した。このデータを用いてInSAR解析を行い、さらにM9.0の地震に伴う変動縞から長波長トレンドを除去することで、同地震により誘発された内陸地殻の変形を検出した。茨城県北部から福島県浜通り、長野県北部、宮城県北部、吾妻山麓等について報告する。

14:40 - 15:10

発表者：遠田晋次

タイトル：太平洋沖地震による内陸地震のトリガリングと今後の地震活動への長期的影響

要旨：同地震による静的応力変化に関する計算結果と今後の地震活動の推移予測について紹介する。日本列島は地域によって応力場と構造に差があり、クーロン応力を解く断層面を適確に判断する必要がある。著者は本震前までの防災科学技術研究所のF-net解を使用し、各地震の両節面をローカルな断層の代表とみなし評価した。応力増加の節面が優位の地域で、その後の地震活動が活発化していることがわかった。

休憩

15:20 - 15:50

発表者：田村修次

タイトル：東京湾ウォーターフロントにおける液状化被害

要旨：東日本大震災では、東京湾のウォーターフロントで激しい液状化が発生し、多くの戸建て住宅が被害をうけた。その被害の状況について話題提供をします。

15:50 - 16:20

発表者：後藤浩之（前半），山田真澄（後半）

タイトル：宮城県北部を中心とした地震動による被害

要旨：本地震では栗原市築館で震度7が観測され，また広い範囲で震度6強の地震動が観測されている．今回は宮城県北部地域（大崎市古川，宮城野区苦竹，栗原市築館，登米市迫町佐沼など）に着目し，本震後の被害の実態について報告する．また，4/7に発生した余震では，この地域において工学的に重要な周期帯域で本震と同等なレベルの地震動が観測されている．この余震による被害を本震後の様子と比較することで抽出を試みた．